

平成29年3月5日(日)

老球の細道310号

ゲームマネジメント〈15〉最終回 ゲーム後の仕事

会津バスケットボール協会 室井 富仁

厳しい戦いが終了して家に帰ってからのビールはコーチにとって(私だけかもしれないが)至福のひと時である。ゲーム前の日々も重要なゲーム(大会)であればあるほどぐっすり眠れない夜は続く。ゲームが終わっても眠れない夜は終わらない。ゲーム中のあれこれが絶えず頭の中を駆け巡り、夢の中でも戦いは続いている。早く介錯をしてもらいぐっすり眠りたいと思ったことが何度あったことか。

ゲームが終わった後も重要な仕事が残っている。ゲームの結果を保護者等ステークホルダー(チーム関係者)に報告しなければならない。特にゲームを観戦できなかった保護者に対しては重要な「コーチの誠意」である。「早さは誠意である」の言葉が示すように大会結果報告の通信はすぐに書く。このような地道な作業が保護者の信頼を獲得する。

若い頃の私は、練習試合や大会が終わっても、自分なりにコーチングノートに反省や課題などはまとめていたが、外部に発信することまでは考えなかった。現在のようにパソコンもなく、私の手書き字では相当勇気のいることだったからである。しかし、20年前に当時長崎鶴鳴女子高校監督(全国制覇2回)だった山崎純男先生の大会通信を見せてもらってから考えが変わった。当時パソコンがまだ一般的ではなかった時代に、すでにパソコンを使って個人のスタッツなども盛り込んだすばらしい通信で、私も書きたいと思った。

ゲーム後の仕事の手順を俺流にまとめてみる。

- ①ゲームの反省をする。オフェンス、ディフェンスにおける良かった、悪かったことを箇条書きに書きだす。ゲームの時期の目標に着眼点をおいて思うがままに書き出してみる。個人の良かった、悪かったこと。コーチのベンチワークの良かった、悪かったこと等。
- ②次のゲーム、大会における課題を書き出す。最終的なチームプランを頭に描きながら、現在の練習目標に沿って、これから何をしなければいけないかに的を絞る。
- ③ゲーム通信にまとめる。ゲームの日時、場所、試合結果を書く。ゲームの戦評、スタッツなどをできれば記入する。選手や保護者が最も知りたがっているコーチの感想、選手の活躍、今後のゲームに向けての抱負などを具体的に記す。その時に注意することは、マイナスイメージのことは極力避け、チームや選手の良かったところをたくさん取り上げる。これによって負け試合でも良かったところが発見でき、次のゲームに対してモチベーションを上げるメンタルトレーニングとなる。もう一つ注意することは、ユーモアをたくさん含んだ読みたくなるような文章を書くことである。ユーモアはコーチの重要な資質である。
- ④通信をステークホルダー全員に配る。選手や保護者は選手を通して、OBや外部応援者にはFAX(メール)等で。私はできなかったが、クラス担任などにも配布すれば担任の部活動に対する理解にも役立つかもしれない。

これらの作業を終了することで次のゲームへ新たな気持ちでスタートすることができる。考えていることを文章にすることは面倒だが、頭の中が整理され、話をする内容もまとまる。コーチには「読む、書く、話す」。それに「汗をかけ、恥をかけ、耳をかけ、頭をかけ、夢をえがけ、そして書いて、書いて、書け」が要求される。 (完)